

2011年1月10日

東京外国為替市場委員会 第137回会合 議事録

開催日時 2010年11月24日 13:00～14:00
場 所 日本銀行本店 新館9階中会議室
議 長 星野 昭
副 議 長 中野 北斗
副 議 長 梨本 忠彦
書 記 竹内 淳
出席委員 20名

I. 委員の任期満了・再任について

星野議長より、小田川委員の任期（2年）が満了することが報告されました。小田川氏から、委員に再び立候補する意思が示され、全会一致で了承されました。

II. 小委員会報告

1. 運営小委員会

井上小委員長より、本委員会の活発化に向けた企画について議論があった旨が報告されました。具体的には、デリバティブ規制のドット・フランク法に関する勉強会（外部講師（米系法律事務所）を招聘）を予定していることや、オフショア人民元の規制緩和に関する勉強会開催の提案があったことが報告されました。このほか、為替部門における若手の育成のために、ブルーブックの改訂に着手してはどうかとの提案があったことが報告されました。

2. BCP小委員会

星野小委員長より、11月17日に実施したBCP訓練に関して、各参加者からのアンケートを集計中である旨が報告されました。携帯電話メールでのやりとりにおいて全体把握が難しかったことや、他市場とのフェーズの定義の違いがわかりづらかったことが指摘事項にあがっており、次回の訓練では、こうした意見を反映して臨みたいとの意向が示されました。

3. NDF慣行整備小委員会

広田小委員長より、対円NDF取引のFixingレートの算出に用いるドル円レートについて、「各通貨のFixing公示時間に近いロイターのドル円レートを推奨する」との方針で合意

に至ったことが報告されました。これを受けて同方針が本委員会でも承認されました。

今後の検討課題として、対円 NDF・Fixing レートの閲覧ページがあれば、取引慣行の普及に貢献するとみられるため、トムソンロイター社等とページ作成について協議したいとの意向が示されました。その他の課題として、欧州エマージング通貨やラテン通貨について同様の対応が出来るかの検討が必要との指摘や、正確なクロス円レートの算出にはドル円のフォワードレートを加味する必要がありその扱いをどうするか等の検討が必要との指摘があった旨、報告がありました。

4. 教育小委員会

河野小委員長より、次回フォレックス・セミナーの講師選定について、引き続き調整を行っている旨が報告されました。また、セミナーへの参加人数を増やすため、案内状を各銀行経由で機関投資家へ配布してはどうかとの提案がありました。

III. その他

2月1日に年次総会を開催する旨、連絡がありました。

以 上

(別紙)

東京外国為替市場委員会委員名簿 (11月24日現在)

<委員>

議長	○星野 昭	(三菱東京 UFJ 銀行)
副議長・市場調査小委員長	○中野 北斗	(みずほコーポレート銀行)
副議長	○梨本 忠彦	(パークレイズ銀行)
書記	○竹内 淳	(日本銀行)
運営小委員長	○井上 英明	(三菱 UFJ 信託銀行)
広報小委員長	○大木 一寛	(EBS デイリング・リソース・ジャパン)
教育小委員長	○河野 文彦	(野村証券)
法律問題小委員長	○今西 晋嗣	(住友信託銀行)
Code of Conduct 小委員長	○好川 弘一	(BNP パリバ銀行)
決済小委員長	小松 淳	(みずほ銀行)
E コマース小委員長	○高木 晴久	(三井住友銀行)
	北倉 克憲	(中央三井信託銀行)
	○小田川 正知	(ゴールドマン・サックス証券)
	○宗川 雄視	(ロイター・ジャパン)
	○石川 昌信	(トウキョウ・フレックス上田ハーロー)
	○大西 知生	(ドイツ証券)
	○広田 泰司	(JP モルガン・チェース銀行)

<準委員>

	○野口 嘉彦	(マネー・ブローカーズ・アソシエーション)
	○山本 嘉樹	(みずほコーポレート銀行)
	○葛原 圭	(三菱東京 UFJ 銀行)
	○古賀 麻衣子	(日本銀行)

<オブザーバー>

	○河西 修	(財務省)
--	-------	-------

(注) 敬称略 (順不同)。○は今回出席。